

あいちの ふくし

特集 ASC卒業生によるボランティア体験活動
～あいちシルバーカレッジの新たなとりくみ～ 02

**愛知県障害者スポーツ大会における
新たなとりくみ** 03

■『寄り添う』って な～に?～福祉の星フォーラム～ 04

■各地の社協をたずねて 05

■教育支援資金のご案内 06

■施設紹介 07

■福祉生きがいセンターだより 08・09

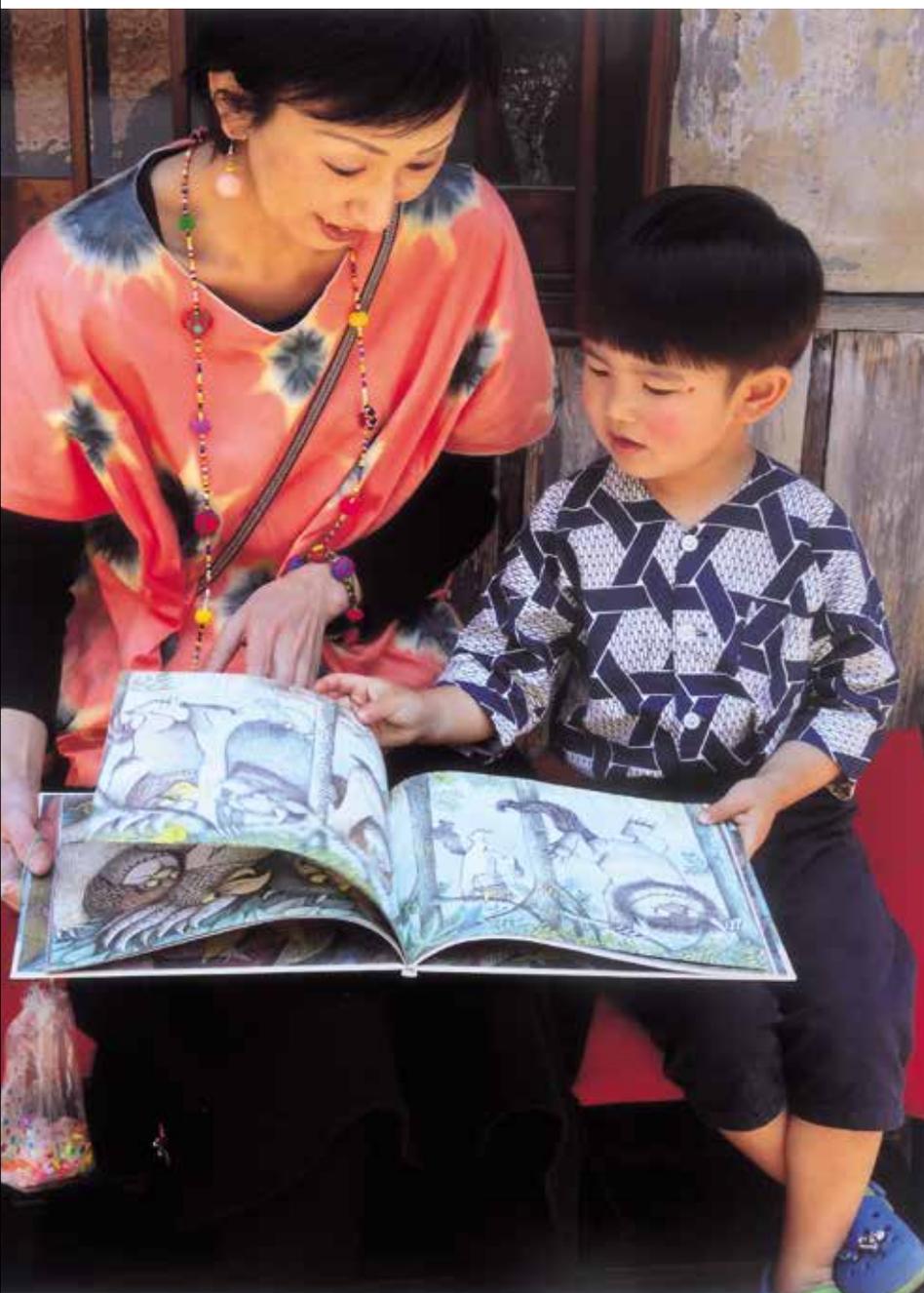
■福祉人材センターだより 10

■愛知県共同募金会だより 11・12

■福祉の保険Q&A 12
ご寄付に感謝

社会福祉法人愛知県社会福祉協議会
名古屋市中区丸の内二丁目4番7号
☎(052)232-1181
編集発行人 西尾昭雄
<http://www.aichi-fukushi.or.jp/>

2014.11
no.477



かけがえのなや

椋山女学園大学 人間関係学部 准教授 手嶋雅史

1901年(明34)、報知新聞が100年後の未来予想を紹介しました。日露戦争が始まる3年前のことです。電気が燃料になり、温度調節した空気を送り出す機械ができ、写真電話で買物ができる。自動車普及し、列車が東京・神戸間を二時間半で走る。現在は予想を遥かに超えた先を進んでいます。一方、実現しなかった予想もいくつかあります。蚊やノミの滅亡、台風の一ヶ月以上前の予測と破壊、砂漠の緑化等は、今でも私たちの暮らしを不安にさせているものです。100年の流れは、人間が35億年もの間、地球の環境に育まれ、繋げてきた命の時間に比べればほんの一瞬に過ぎません。その一瞬で暮らしは良くも悪くも一変したのです。

しかし、変わらなかつたものに「シヨウガイ」があります。私たちの体は、人間の歴史、数百万年の中で地球の環境に育まれた「共通の財産」です。進化する過程で人間にあらわれた「シヨウガイ」を種(しゆ)として取り入れ続けることで発展し、「重いシヨウガイ」があつても、それを受人れ、伝え続けています。人間が人間であるという証です。全ての人は「シヨウガイ」を長い時間をかけて繋いできたからこそここに立っているのです。さて、今年は第4期障害福祉計画作成の年です。3年先、そしてこれから100年後の未来予想はどんなものにしていきましようか？

(社会就労センター部会職員研修会 講師)

ASC卒業生によるボランティア体験活動 〜あいちシルバーカレッジの新たなとりくみ〜

あいちシルバーカレッジ
(通称ASC)とは

生きがいと健康づくりを図るとともに、「地域における社会活動の中核となる人材を養成すること」を目的として、講義を中心に、修学旅行、社会見学など、年間30日のカリキュラムを実施しています。(具体的なASCの様子はP.8の「福祉生きがいセンターだより」をご覧ください。)

ASCの特徴

ASCは今年で24年目を迎え、今年度末で卒業生の総数は一万人を超える見込みです。卒業後は、同窓会や趣味のサークル等を組織して、在学中に築いたつながりや知識を生かして卒業後も自主的に活動を継続されています。

中には、一般の方が参加できる「高齢者が子どもに教えるパソコンお絵描き教室」を大型商業施設で展開している活動事例もあります。

ASCの課題

ASCでは社会参加のきっかけづくりとして、社会活動に関する科目「生きがい活動応援科目」を必修に位置づけ、定期的にボランティア情報を提供する等の取り組みを行っています。

しかし、クラスやサークルの活動を自分たちだけの閉ざされたものから一般の方が参加できる地域活動へ発展させることは難しく、ASCにおいて社会活動につながるいくつかの取り組みが必要です。(イメージ図)

ASC学生の社会活動 (イメージ図)



生き生き長寿フェアへの ボランティア参加

その取り組みのひとつとして、在学時に参加したウォークラリー大会をはじめとした健康づくりイベントである「生き生き長寿フェア(10月18日開催)」に運営ボランティアへの参加を呼び掛けました。中には同窓会活動として位置づけるクラスもあり、80名を超える多数の申し込みをいただきました。

当日は、気持ちのいい秋晴れの中で、会場案内、ニュースポーツ体験コーナーの運営など元気に活動いただきました。卒業生ボランティアの皆さんのおかげで、例年以上の活気に包まれ、無事に実施することができました。



愛知県障害者スポーツ大会における 新たなとりくみ

4月、5月に開催されたボウリング競技、水泳競技・卓球競技、サウンドテーブルテニス競技、陸上競技・フライングディスク競技の各県大会における、近年の新たなとりくみについてご紹介します。

愛知県障害者スポーツ大会は、県内各地から総勢約1,300人の選手のエントリーがあり、選手の一生懸命な姿とたくさんの方の応援、そして大会を支えていただいた大勢のボランティアの参加で各会場はにぎわいました。

昨年からの新たなとりくみとして、県内の特別支援学校等に「スポーツ活動または、活動を応援している絵」の作品募集を行い、優秀作品を水泳競技・卓球競技会場、陸上競技・フライングディスク競技会場で展示しています。

最優秀作品を、大会プログラムの表紙として掲載し、陸上競技・フライングディスク競技会場にて表彰式を行いました。

また、陸上競技・フライングディスク競技会場前の広場に、交流の場として「ふれあい広場」を開設しました。スポレク体験・手作りおもちゃ・模擬店等の企画はどれも好評で、大会参加選手のみではなく、選手のご家族や、一般の来場者の方など、多くの方がともに楽しむ場となりました。

開会式では、会場近くの豊田市立井郷中学校吹奏楽部の38人の皆さんが生演奏を行ってください、大会参加者から大好評を得ました。

これらの新たなとりくみが、愛知県障害者スポーツ大会の参加選手・家族に加え、地域のみならずに楽しんでご参加いただき、障害者スポーツへの関心が広がるきっかけとなることを願っています。



絵のコンクール優秀作品



手作りおもちゃ体験の様子



スポレク体験の様子



豊田市立井郷中学校
吹奏楽部の皆さん



模擬店の様子



『寄り添う』ってな〜に？
福祉の星フォーラム



▲県社協大沢会長による挨拶

平成26年9月29日(月)、ナディアパークデザインホールにて、「福祉の星フォーラム」が開催されました。今回は「『寄り添う』ってな〜に？」をテーマに、福祉現場で働く職員が日頃の仕事を通して『寄り添う』ことについて話し合い、利用者にとつてより良い生活づくりについて考えました。

当日は、様々な分野の福祉施設で働く職員による「フレンドリー・ディスカッション」をはじめ、木下サーカス株式会社の木下唯志代表取締役社長による「私のサーカス人生〜人と人の交流〜」と題した講演、クラウンファミリアープレジャーBによる「アトラクション」、参加者同士の交流を深める「ネットワークタイム」などが行われました。

「フレンドリー・ディスカッション」では、高齢者福祉施設岩崎あいの郷の本田有希さん、南部地域療育センターそよ風の加藤瑞菜さん、児童養護施設溢愛館の山田知美さんの3名をシンポジストとして招き、日本福祉大学中央福祉専門学校専任教員の渡辺哲雄さんと木下唯志さんによる進行のもと、シンポジストがそれぞれの仕事を通して学んだことや自身の仕事に対する姿勢など、思い思いに語っていただきました。

【話し合われた主な内容】

- ・福祉は、きつい、汚い、危険の「3K」といわれるが、利用者や家族の笑顔や言葉によって、「やりがい」を感じている
- ・利用者への接し方について考え方に違いはあるものの、利用者の生活を支えようという気持ちは同じである

【主な感想】

- ・シンポジストが、非常に明るく前向きに取り組まれていることが素晴らしく、私もがんばろうと思いました。



▲フレンドリー・ディスカッションの様子



▲ネットワークタイムの様子

みんなで挑戦!!

福祉検定

Q 平成25年度のハローワークを通じた障害者の就職件数(全国)は77,883件で、4年連続で過去最高を更新しました。中でも精神障害者の就職件数が大幅に増加し、初めて身体障害者の件数を上回りました。

また、愛知県内における一般の民間企業に雇用されている障害者数は過去最高を更新し、25,066人になりました。一方で、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に定められた障害者の法定雇用率(2.0%)には届いていません。さて、愛知県の障害者の実雇用率は何%でしょう？(H25/6/1現在)

- 1 1.35% 2 1.68% 3 1.91%

こたえは…12ページをご覧ください。

各地の
社協を
たずねて



ボランティア活動・市民活動の支援のために —東浦町総合ボランティアセンターのオープン—



協力 東浦町社会福祉協議会

平成26年7月にひとつの答えがで
ました。東浦町総合ボランティアセン
ターなないろ(以下「センター」とい
う。)の誕生です。



▲総合ボランティアセンターなないろ

約2年をかけ、ボランティアセン
ター運営委員会にて、2つのテーマを
同時に協議してきました。ひとつは、
既存である社協のボランティアセン
ター事業の強化・発展について。

もうひとつは、新たなセンターの機能
や事業に関する事です。この運営委
員会の特徴は、行政と社協がともに
運営の事務局を担ったことです。なぜ
その方法を選んだのか。それは、行政
の望む「市民活動センター」と社協の
運営する「ボランティアセンター」が、
名前は違っても、機能や役割、そして
思い、何よりも目的は同じであると仮
定したからです。また窓口の一元化、



▲センター内部の様子

町内で唯一の窓口とすることを共通
の目的としたためです。利用する人が
何を求めているのか、どのような人に
利用してもらいたいのか、どんな機能や
役割が必要なのか等、いずれでも
あろう新たなセンターの姿を思い協
議を続けました。
そして新たに誕生したセンターを
指定管理者として運営していく社協
にとって、まだまだ市民活動の分野は



▲ボランティアセンター運営委員会の様子

不慣れですが、不慣れを恥じるのでは
なく、頭でつかちにならず、地域の活
動者と思いをすり合わせながら、歩ん
でいくことが大切と考えています。
究極のセンターの姿は、センターとい
う専用の建物や拠点が役割を終え、そ
れぞれの地域の実情に合わせた拠
点を、住民によって運営することでは
ないでしょうか。そうやっていくための長
道のりのはじめの一步と思っています。



▲センター利用の様子

教育支援資金のご案内

生活福祉資金 教育支援資金 とは

他から資金の借入れが困難な所得の低い世帯の方へ、学校教育法に規定する高等学校、大学（短期大学及び専修学校の専門課程を含む。）又は高等専門学校へ入学・就学するために必要な費用の貸付を行っております。



教育支援費

就学支度費

資金の種類

対象となる学校へ
就学するために必要な経費
(授業料、教科書、交通費等)

対象となる学校へ
入学するために必要な経費
(入学金、制服、体操服等)

貸付限度額

高等学校 月額35,000円以内
高等専門学校 月額60,000円以内
短期大学 月額60,000円以内
(専修学校専門課程を含む)
大学 月額65,000円以内

500,000円以内

償還期限

据置期間(卒業後6か月以内)経過後、
20年以内

貸付利率

無利子



その他

- ・貸付には審査があります。
- ・世帯全体の過去の年間所得や債務の状況等についてもお伺いします。
- ・公的給付や他の貸付制度がご利用いただける方はそちらを優先していただきます。
- ・原則として連帯保証人は不要ですが、必要に応じて求めることがあります。
- ・借入申込時から償還完了まで社会福祉協議会と民生委員が世帯の支援に関わります。

詳しくは、お住まいの市区町村社会福祉協議会へお問い合わせください。



施設
紹介

社会福祉法人 あさみどりの会 児童発達支援センターさわらび園

施設長 島崎徹也

「母子通園」という実践が様々な出逢いを育んできました

さわらび園は昭和47年12月に精神薄弱児通園施設として、名古屋市千種区新池町にて開所しました。開園当初から母子通園を基本方針とし、子どもの療育とともに、保護者への支援プログラムも併行して行い、家庭養育への支援を行うことが、

障がいをもつ子どもとその家族の幸せを実現するということを療育の根本に置きながら、現在まで活動してきています。

母親や父親の療育参加が子どもの発達支援に大きな効果をもたらすことを42年間にわたる実践の中で実感してきています。障がいがあっても「子どもは子ども」、少し根気と時間はかかるけど、生活面の基本的なスキルは母子関係や家族の営みの中で当たり前前に培われていきます。その当たり前前の営みを支えてきたのがさわらび園の取り組みだと思っています。

また、社会福祉法人あさみどりの会が昭和32年からボランティアグループとして地域福祉（福祉映画の制作、講演会等の開催、出版物の発行、ボランティアの育成等）の実践を長年にわたって積み重ねてきたことも大きな力になっています。あさみどりの

の会でボランティアを体験した人達は、全国各地で様々な福祉活動を展開しています。福祉関係の職員になった人もいれば、一般企業に勤めながら、今もボランティア活動など様々な社会貢献をしている人もいます。障がいのあるこの子らが世の光になって、広く社会の人々の心の育ちにも貢献してきました。

さわらび園は開園当初から療育相談所とボランティアセンターの機能を併設し、常に地域社会との関わりの中で母子通園が営まれてきたことも、子どももお母さんもお父さんもいち早く元気を取り戻していき、子どもが生きづらいうおとなにならないよう、健全な家族の営みに繋がっていったものと考えられます。

現在、さわらび園は「児童発達支援事業」「放課後等デイサービス」「保育所等訪問支援」「障害児相談支援」などの機能をもった「児童発達

支援センター」として活動しています。が、今も様々な人達の出逢いが交差する場所になっています。



▲今年新園舎になりました



▲3泊4日の療育キャンプ(家族、ボランティア、職員たち)



福祉生きがいセンターだより

あいちシルバーカレッジの充実した学生生活

第24期あいちシルバーカレッジが4月から始まり、11月を迎え、残り半分を切りました。今回はあいちシルバーカレッジの様子を一学期中心に紹介します。

あいちシルバーカレッジは愛知県内在住の満60歳以上を対象に、名古屋、豊橋、岡崎、一宮の4会場で開催しており、合計540名の皆さんに年間30日の講義を受講していただきます。

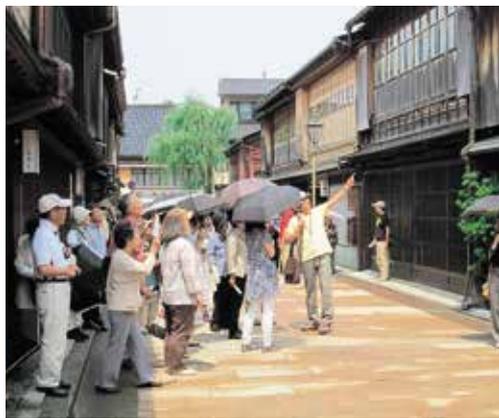
【授業風景】

開校日には、学生時代の新入生のような緊張感のなかで、初回のホームルームを受けていただきました。ここでは、学生ひとりひとりに自己紹介をしていただき、クラスの名とめ役であるクラス役員を選出していただきました。最初は不安げな面持ちでしたが、今ではクラスでお互いに協力しあい、ホームルームを自主的に運営しています。

通常の講義では文化から健康に関する様々な分野の講義を受講し、生きがいと健康づくりや社会活動等の学習をしていただきます。



■講義風景



■修学旅行の思い出（東茶屋街散策）

【修学旅行】

6月には石川県にある山代温泉へ1泊2日の修学旅行に行きました。

1日目は、朝早くに出発して話題の黒田官兵衛博覧会の見学、山中座の山中節を鑑賞いただき、山代温泉内のホテルに到着しました。夜の懇親会では、学生がグループで工夫を凝らしたカラオケ等の出し物をしていただき、年齢を全く感じさせない盛り上がりとなりました。

前日の興奮も冷

めやらぬ中、2日目は東茶屋街・兼六園などの名所でガイドを聞き、歴史的な理解を深めました。この2日間を無事終えて、クラスとしての一体感をより深めていただくことができました。

【夏休みサークル活動】

8月は夏休みですが、この期間を利用して新たな試みとして、ウォーキング、史跡めぐりやカラオケなど、趣味や関心が近い学生同士で、グループ計画づくりをしていただき、夏休み期間中に活動していただきました。

この夏休みサークル活動を、社会活動や卒業後の活動のきっかけとして役立てていただきたいと思います。



■修学旅行の思い出（懇親会出し物）

スポーツの秋到来!!

平成26年度

愛知県身体障害者アーチェリー大会

平成26年9月14日(日)、名古屋市の猪高緑地アーチェリー場で平成26年度愛知県身体障害者アーチェリー大会を開催しました。当日は天候に恵まれ、雲ひとつ無い青空で、絶好のアーチェリー日和でした。

競技種目は、コンパウンド50m・30mラウンドで、5名での競技大会となりました。大会は、愛知県障害者スポーツ指導者協議会の協力に支えられて運営されています。点数の判定、矢取りなど競技運営に欠かせない役割



■選手・運営協力者のみなさま

を担っていた
だいています。

真剣な眼差
しで、的を狙
う選手の姿が
とても印象的
でした。本大会
参加者には、
本年度、長崎

県にて開催される第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会2014」の愛知県代表選手もいらつ
しゃいます。全国大会での活躍が期
待されます。



■障害者スポーツ指導員による得点記録



■行射の様子

第25回

愛知県身体障害者ゲートボール大会

平成26年9月21日(日)、愛知県一宮総合運動場ゲートボール場にて、第25回愛知県身体障害者ゲートボール大会を開催しました。

県内からブロック予選を勝ち抜いた7チーム50名の選手が参加し、晴天の中、日ごころの練習の成果を発揮しました。

7チームによる変則リーグ戦のなか、たつた1点で勝敗が決定する緊迫した接戦が多くありました。ゲーム展開を考えながら一致団結して、励ましい喜び合う姿に心があたたかくなりました。



■白熱した接戦

また、額に汗をいっぱいかきながら最後まで審判を行っていた一宮市ゲートボール協会の皆様、本当にありがとうございました。

試合結果

優勝: 豊田チーム
準優勝: 豊川Aチーム
第3位: 阿久比チーム
第4位: 設楽チーム



■表彰式の様子



福祉人材センターだより

ご報告

福祉のプロがあなたとの出会いを待っています！(平成26年度福祉の就職総合フェア)

平成26年7月5日(土)名古屋
市国際展示場ポートメッセなごや
において「福祉の就職総合フェア」
を開催しました。このイベントは、
福祉の職場へ就職を目指す方と、
働く人材を求める福祉事業所の方
を対象に、効率的な求職・求人



活動とアピールの機会を提供し、
福祉・介護人材の確保を図る重要
な事業です。本県では好景気の影
響もあり、福祉・介護の人材不足
が続いています。そのような状況の
中、福祉人材センターが開催する
「福祉の就職総合フェア」は求人募
集の法人、事業所等から大いに期
待されているところです。

今回の就職総合フェアでは、より
親しみやすいデザインのポスターや
プログラムを製作しPR・イメージ
アップに努めるとともに、子ども連
れの来場者のためキッズコーナー
を設け保育士・看護師を配置し、
安心して参加をしていただきま
した。
さらに当日の会場では、スタンプ
ラリーに工夫をこらし、一人の求職
者ができる限り楽しい雰囲気の中
で、より多くの法人・事業者ブース
で面接できるようにしました。

これにより、参

加223法人・
求人数2,923
人の出展の状況
に対して、317
人の熱心な求職
者が参加し、1人



▲面談の様子

当たりの面談数は4.7回と前年度の
夏フェアの3.4回を上回りました。福
祉の仕事は、人の笑顔に触れる喜
びを感じ、人の生きざまに寄り添う
責任とやりがいのある仕事です。
今後の予定では、12月6日(土)
愛知県体育館において「福祉の就
職合同面接会」を、11月29日(土)
に刈谷市総合文化センターにおい
て「保育所就職支援フェアあいち
2014」を開催します。愛知県
福祉人材センターでは、これからも
福祉の仕事の素晴らしさを伝え、
福祉人材の確保に一層の努力を
図ってまいります。

ご報告

同日開催しました！
福祉のお仕事就職
支援セミナー

「基礎コース」

同会場において、福祉の仕事に就きた
い方、福祉職場への再就職を希望する方
等を対象に「福祉のお仕事就職支援セミ
ナー(基礎コース)」を開催しました。

講師には、全国を飛び回って活躍され、
国の福祉人材確保対策検討会委員に就任
された、株式会社リクルートキャリア
HELPMAN! JAPAN担当 門野
友彦氏をお招きし、「自分に合う職場の見
つけ方」就職活動に必要な視点を学ぶ」
をテーマに講演していただきました。

受講された39名の中から、「自己理解
ワークを通して、自分に合った会社を見
つけるヒントをいた
だけた。」「分かり
易く就労意欲を喚
起された。」「いま
まで聴いたことが
ない内容で、とて
も楽しく面白かつ
た。」などの声が寄
せられました。



愛知県共同募金会だより

赤い羽根共同募金運動が始まりました。

～本年も皆様のご理解とご協力をお願いします～

10月1日～12月31日

平成26年度共同募金目標額 10億円



■街頭募金の様子

「赤い羽根空の第一便」って？

ANAグループでは、企業の社会貢献活動の一環として、メッセージを届ける橋渡しの役割を担っています。

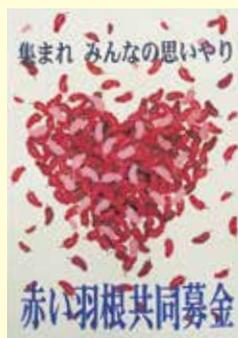
愛知県共同募金会では、共同募金運動のスタートにあたり10月1日(水)11時から金山総合駅にて「赤い羽根空の第一便」伝達式を行いました。
当日は、ANA(全日空)のキャビンアテンダントから、県知事、名古屋市長に厚生労働大臣からの、また、県共同募金会長に中央共同募金会長からの運動啓発メッセージと赤い羽根が手渡されました。
また、引き続き行いました街頭募金では、金山保育園の園児のみなさんと「共同募金お願いします」と呼びかけました。

「赤い羽根空の第一便」伝達式

第66回赤い羽根協賛児童生徒作品コンクール

「第66回赤い羽根協賛児童生徒作品(書道・ポスター)コンクール」を実施したところ、県内の小・中学生から、191,812点の応募がありました。各市区町村共同募金委員会による第1次審査を経て提出された作品の審査の結果、書道・ポスターの特賞入賞者を決定しました。

入賞作品は本会ホームページにてご覧いただけます。 <http://www.aichi-akaihane.or.jp>



田原市立福江中学校
3年 森下風香



安城市立桜林小学校
5年 山口 航

《ポスターの部 愛知県知事賞》



犬山市立犬山中学校
3年 佐竹来実



阿久比町立草木小学校
5年 竹内良太

《書道の部 愛知県知事賞》

〔審査員 野崎悠子 愛知県立芸術大学名誉教授〕
愛知県知事賞…中3 森下風香さん
画面中央にモチーフの赤い羽根を積み上げ散らばれて「集まれみんなの思いやり」と描かれた画面は、共同募金がつなぐ心を見つめ気付けさせてくれる嬉しい作品です。

赤い羽根を掲げて「たすけたい気持ち届け」と呼びかける少年の手を、嬉しく受け止めている呼び掛け画面は「赤い羽根募金」の趣旨を鮮やかに表しています。

愛知県知事賞…小5 山口 航さん
赤い羽根を掲げて「たすけたい気持ち届け」と呼ぶ審査となりました。鮮やかな画面の構成、作者の気持ちが現わされた心に響く呼び掛け、それが表現しようとしている気持ちを読み取ることに留意しました。

《ポスター・評》
各校で選ばれた力作群。今年も印象に残る素晴らしい作品が数多く寄せられ嬉しく辛い審査となりました。

〔審査員 風岡正明 愛知教育大学名誉教授〕
「赤い羽根」は何と云っても筆力が抜群で、それだけに訴える力があふれています。また文字の大小もよく調和して素晴らしい作品となりました。

《書道・評》
手書きの文字は、そのことばの意味だけでなく、書いた人の心が表れます。特に毛筆で書かれた場合はなおさらです。寄せられたどの作品にも思いやりの心が感じられます。愛知県知事賞・中3 佐竹来実さんの「赤い羽根募金」は一点一画が実に丁寧で、堂々とした書きぶりに感動を覚えます。さらに紙面いっぱい書きながら窮屈でなく余裕さえ感じます。同賞・小5 竹内良太さんの「赤い羽根」は、何と云っても筆力が抜群で、それだけに訴える力があふれています。また文字の大小もよく調和して素晴らしい作品となりました。

Q&A

福祉の保険

Q

地震や台風で被害に遭われた地域にボランティア活動に行きたいと思えます。通常の手続と異なる点はありますか？

A

災害救助法が適用されるような規模の災害の場合は、大規模災害時の取り扱いになります。通常は保険手続が完了した翌日から補償開始となりますが、大規模災害時のボランティア活動は即時の補償開始となります。

また、地震災害のボランティア活動には天災プランの加入をお勧めしています。天災プランに加入していただくと、ボランティア活動中の地震もしくは噴火、津波及びこれらにともなって生じた事故も補償することができます。

加入手続き・お問い合わせは、お住まい又は活動場所の市区町村社会福祉協議会へ

取扱代理店 愛知福祉朝日保険サービス TEL.052-221-0294
引受保険会社 朝日火災海上保険株式会社 TEL.052-231-4461

ご寄付に感謝



本会にたくさんのご寄付をいただき、ありがとうございます。みなさまからの善意を「あたたかい福祉社会」づくりに活かしていけるよう事業に取り組んで参ります。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い致します。

ご寄付いただいた方(平成26年8月～平成26年9月)

そごう西武労働組合 岡崎支部 様……………(岡崎市)
PSM協力会 様……………(名古屋市)
(2件)

愛知県共同募金会だより

OKAYA CHARITY CONCERT 2014
～感謝のタベ～

岡谷鋼機株式会社では、平成26年7月18日(金)に、愛知県芸術劇場コンサートホールにおいて、社会貢献活動の一環として、「OKAYA CHARITY CONCERT 2014」が開催されました。

コンサートの入場料収入全額と、同社からのマッチングギフト方式により愛知県共同募金会へ360万円をご寄付いただきました。

また、当日は、会場内において、災害ボランティア・NPO活動サポート募金2(東日本大震災の被災地を支えるボランティア等活動の資金)の募金活動を行ったところ、211,095円のご寄付をいただきました。

岡谷鋼機株式会社様をはじめ、ご来場の皆様、誠にありがとうございました。

お寄せいただいた寄付金は、地域の社会福祉向上のために役立たせていただきます。

「マッチングギフト」って?.....

企業などが社会貢献を目的として寄付を募る際、寄せられた金額に対して企業側が一定比率の額を上乗せして寄付することです。つまり…



福祉検定 解答

A 2 1.68%

愛知県内の障害者の実雇用率について、前年より0.07ポイント上昇しましたが、法定雇用率を下回り、全国平均の実雇用率1.76%をも下回っています。実雇用率が一番高いのは、山口県の2.33%です。また、愛知県の法定雇用率達成企業の割合は、40.6%です。(厚生労働省「平成25年度 障害者の職業紹介状況等」「平成25年障害者雇用状況の集計結果」愛知県「障害者の雇用のために」より)

問題は…4ページにあります。

家庭常備薬の斡旋をぜひご利用ください。

すべては「健康」のために…私たちは誠意と熱意で応えます。

健康 安心 安全 誠実

＜事業内容＞
医薬品、防疫薬品、医薬部外品、化粧品
健康食品、健康関連用品の取り扱い。



お客さまのニーズにあった商品を豊富に取り揃えております。

大日商事株式会社

TEL (06)6952-7015

FAX (06)6952-7137 大阪市旭区大宮4丁目18番18号

